

# 【事業者様用】 堀川御池ギャラリー 発展活用説明書

## 目次

@KCUAが担ってきた役割について	……	P1
ヒアリングをふまえた“募集枠のニーズ”について	……	P2
事業方針や運営枠組み	……	P3～4
文化事業のファンドレイジングについて	……	P5

# 京都市教育委員会

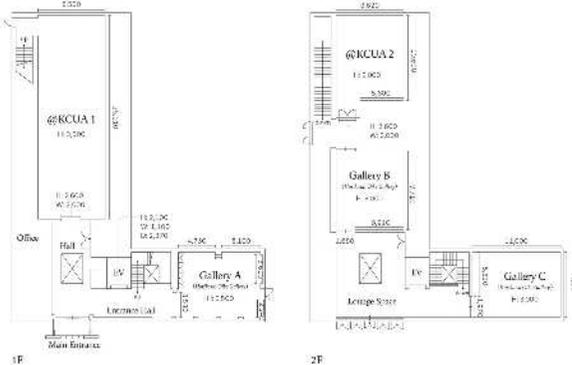
## 1. @KCUAが担ってきた役割について

### 「@KCUA（アクア）」について

平成19年に、音楽・美術活動の中核施設として「文化芸術都市・京都」創生の一翼を担い、市民が音楽や芸術に広く触れ親しむことができる環境づくりを進めるため、京都堀川音楽高等学校内に市民開放型ギャラリー「堀川御池ギャラリー」や、その棟内に京都市立芸術大学サテライト施設「@KCUA（アクア）」を整備した。

#### <施設整備方針>

- ① 地域と歩む開かれた学校づくりの歴史を承継し、音楽高校の発展、創造性に寄与し、次代の教育に対応する機能性の高い施設
- ② 子どもたち、また市民にとっても魅力ある空間と音楽的にも優れた環境と音響を実現する施設
- ③ 「新景観政策 時を超え光り輝く京都の景観づくり」の先導的な役割を担い、都市景観の保全及び形成の向上に寄与する優れたデザイン性を有する施設
- ④ 優れた文化芸術やかけがえのない文化財を育み引き継ぎながら、日本文化の中心として築き上げてきた京都の文化芸術を新しく創造する施設



### 役割を一部、継承したい

#### アクアの役割 ※京都市立芸術大学HPより

##### <教育・研究成果を広く市民へ公開すること>

創立以来140年以上にわたって本学では、様々な成果を生み蓄積し、大学の内外で公表してきましたが、さらに、京都市の中心部に発表の場ができたことによって、より身近な場で市民に公開できる機会が得られることになりました。在校生、教員および卒業生の研究成果に基づく展覧会、ワークショップ、講演・講座等を市民向けに開催すると共に、京都を中心とする産業界や教育機関、研究機関との連携プロジェクトの成果発表にも努めます

##### <芸術文化創出の人材交流の場とすること>

ギャラリーにおける展覧会、ワークショップ、講座等の企画に際し、成果の公表そのものを目的とするだけではなく、学内、同窓会、市民、産業界、教育関係諸機関、研究所などの連携プロジェクトを通じて、**広く人々が交流できる場を形成していきます。**

##### <芸術資源の連携活用のサテライト機能を果たすこと>

本学と市民、京都市、産業界、他の諸機関が連携するにしても、**基盤となるのは、情報の収集と交換です。**京都が有する芸術資源としての、人、物、場所、風景や景観、技術、材料、暮らしの知恵に関わる情報を収集し、蓄積し、交流させる機関が必要となります。本ギャラリーは衛星的な位置を利用して、**情報の収集、蓄積、交換（発信と受信）の一翼を担います。**

### ギャラリー利用者の声（アンケート結果）



令和4年度に、利用者（一般市民）に対して、今後の堀川御池ギャラリーの活用について、アンケートを実施。ギャラリーの存続を願う声が多数寄せられた。

#### <アンケート時、提案があった活用事例>

銅駝美工高とのワークショップコラボ、有料展覧会開催、現代アートへの積極的取組、地域再生としてのコンテンツ充実、ICT対応の充実、二条城との相互共同企画、地域活性の取組（幼児から高齢者、医療、福祉、若手作家の作品展示）

#### <アンケート時にいただいた施設への感想>

交通の便、立地条件が良い、設備が整っている、周辺の環境が良い、明るく清潔で快適、手軽に利用できる

#### 現状の強み

- ・市街中心地にあり、交通の利便性に富む
- ・京都市としては数少ない、中規模展示スペースである
- ・これまでの取組により、文化・芸術の発信拠点として、芸術分野に認知度が高い。

#### 現状の弱み

- ・学校施設のため、事業内容に制限がある（飲食、販売などの営業等）
- ・現状はキュレーション機能が無いため、施設としての理念を示すことができず、新しい価値を生み出しにくい。
- ・駐車場、駐輪場、飲食等の集客機能が弱い

## 2. ヒアリングをふまえた「募集枠のニーズ」について

### 浮かび上がってきた「募集枠のニーズ」

京都市他部署と連携し京都の強みをさらに伸ばす「攻め」の視点も考察

文化と経済の好循環（新たな経済価値の創出、カルチャープレナー創出など）/文化芸術による共生社会の実現（子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出など）/芸術家・文化関係者・文化拠点とのネットワークづくり/文化庁移転、市立芸大移転の好機を捉えた京都からの新たな文化・経済施策の提案、人口減少、転出対策、定住移住促進

<連携部署>  
都市経営戦略室/文化芸術企画課/地域企業イノベーション推進室ほか



#### \*ハード面

建物正面が閉鎖的。オープンカフェ等の活用も考えられる。

「コマースギャラリーとしてやるなら家賃は到底払える金額ではない。カフェを開くことによって集まりやすい場所になる想像はできる。京都の若手の作家のためのギャラリーをやります、それを京都の企業が支えるという文脈はわかりやすい」

地域企業経営者/アートマネージャーほか

「駐輪場」はあった方が良い

路面店は自転車での来場が多く駐輪場はあった方がよい。道路沿いにつくったが車は止まらない。

ギャラリー運営者/地域企業経営者

#### \*文化事業の運営について

「文化事業」は事業費の捻出が難しい。何らかの資金対策が必要

アーティストが借りるには大きすぎる。「先行投資として作家へ使用料を請求しないギャラリーもある。/文化事業で収益を上げることは難易度が高い。

ギャラリー運営者/地域企業経営者

企画展の準備は1年前から。オープンに合わせて計画運用が必要

企画や調整のために1年前後の準備期間も必要。十分な文化事業を行うためには何らかの費用捻出が必要である

ギャラリー運営者/地域企業経営者

一貫性のある運営、対応が望ましい

連携が取れていない事業者がそれぞれで運営することは望ましくない。一貫性のある運営や対応があることが望ましい

経営者

#### \*インタビューおよびアンケート結果からの所感まとめ

これまで@KCUA で行われていた展示が素晴らしかったので、新しい施設になってもアート文脈に寄り添った展示が行われてほしい

マネタイズは非常に大切ではあるが、それだけに偏った施設にはしてほしい  
(公共性・公益性の担保)

学校ごと、地域ごと、年代別といった垣根を超えた施設にほしい

若者支援も大切だが、40-50代のバブルが終わった後の失われた世代にも注目してほしい  
(過去のアーカイブの重要性)

対話を用いた鑑賞など、感性やプロセスを大切にしたい  
子供たちがアートを楽しめる施設にほしい

周辺地域とともにコミュニティ（生態系/経済圏）を作ってほしい  
(若い作家、職人の雇用創出)

### 3.事業方針や運営枠組み①

活用コンセプトは「教育」を軸にしながら  
「文化と経済の好循環を創出する都市」を見据える

「教育」とは学校での教育だけではなく、様々な場面に存在し生涯続くもの。原点は「人」であり、人が生まれ、産業、芸術、文化も育まれていく。それが多様な価値を育み、人の人生を豊かにしていく。

教育を軸に様々な年齢層、業種の人たちが交流し、多くを学び知り、体験することができる場の提供を目指していきます。



#### カルチャープレナー（文化起業家）とは

カルチャープレナーとは、文化やクリエイティブ領域の活動で新しいビジネスを展開し、豊かな世界を実現しようとする文化起業家のことを指します。英語の「Cultural Entrepreneurs」を元にした造語です。

京都市では、自分たちの文化、価値観などへの愛着等をエネルギーの起点に、共感者を増やし、文化的遺伝子を残していくことを意図して事業を成立させている人を「カルチャープレナー（文化起業家）」として注目しています。

「文化と経済の好循環を創出する都市」の実現に向け、文化芸術に投資する新しい潮流を京都から生み出すとともに、創造的な人々の更なる集積や定着に向けた取組や議論を広げていきます

## 元@KCUAスペース

Encounter  
文化・芸術や  
その担い手と出会う

Collaboration  
交流や連携を育む

教育

Incubation  
文化・芸術の  
社会実装を応援する

### 活用コンセプト案

堀川御池ギャラリーは、京都における「文化・芸術の発信拠点」「ひとづくり・まちづくりの拠点」を目指し誕生しました。

本事業はそのために必要な、市民、京都市、産業界、他の諸機関の連携の基盤となる「情報の収集、蓄積、交換（発信と受信）の一翼」という役割を継承し、活用を通じて、あらゆる世代が文化芸術活動に触れ、市民が豊かな感性・情操を育み、若者と文化・芸術の社会実装を育んでいきます。

教育委員会として「文化と経済の好循環を創出する都市」の実現に向け、公民連携で取組を深めていきます。

#### 3つの機能

＜Encounter -文化・芸術と出会う-＞

展覧会。ワークショップなど様々な機会を通じて、子どもたちが文化芸術活動に触れ、市民が豊かな感性・情操を育むことができる環境づくり

＜Collaboration -交流や連携を育む-＞

京都を中心とする産業界や教育機関、研究機関と連携するほか、カフェ等を通じて広く人々が交流できる場づくり

＜Incubation -文化芸術の社会実装を応援する-＞

「文化と経済の好循環を創出する都市」の実現に向け、文化芸術に投資する新しい潮流を京都から生み出すとともに、カルチャープレナー（文化起業家）等、創造的な人々の更なる集積や定着に向けた取組や議論を広げる仕掛けづくり

### 3.事業方針や運営枠組み②

#### 文化と経済の好循環を育む 「連携事業体」を募集

##### (1) 貸付範囲

1階展示室（アクアスペース1）	233.27㎡
1階倉庫及び事務室	76.32㎡
1階展示室（ギャラリーA）	92.87㎡
1階ラウンジスペース	14.33㎡
計	416.79㎡

本施設がこれまで果たしてきた、京都における「文化・芸術の発信拠点」「ひとづくり・まちづくりの拠点」としての役割を踏まえつつ、「あらゆる世代が文化芸術活動に触れ、豊かな感性・情操を育むことができる場」「若者と、文化・芸術を社会実装する場」として公民連携して進めていくことができる活用計画を期待。

##### (2) 最低貸付料 約12,276千円/年

※最低貸付料は本市算定基準による

※連携事業者での募集を行う

※募集要項に示す活用計画における機能が具体的に提案され、実現性・持続性が担保されており、かつ上記最低貸付料の負担能力に乏しい場合は減額措置あり。

※2階のアクアスペース2、ギャラリーB、Cは、市民開放を行うため、活用の対象外。

オープンカフェに改装したイメージ



#### 公益性の高い「文化事業」の企画・運営に期待

##### (1) @KCUA（アクア）スペースの通年運用

活用のない期間を最小化し、1年を通じた効果的なギャラリー運用を行うこと。

##### (2) ワークショップ等の企画・運営

子どもたちが文化芸術活動に触れ、市民が豊かな感性・情操を育むことができる環境づくりのために、京都市内を中心とした文化・芸術に纏わる個人・団体とも連携し、ワークショップ等を企画・運営すること。また開催を通じてカルチャープレナー（文化企業家）の活動の機会を生み出すこと。

##### (3) 市と連携し、文化事業を企画、運営

本施設に関連する市の政策課題（文化と経済の好循環（新たな経済価値の創出、カルチャープレナー創出など）/文化芸術による共生社会の実現（子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出など）/芸術家・文化関係者・文化拠点とのネットワークづくり/文化庁移転、市立芸大移転の好機を捉えた京都からの新たな文化・経済施策の提案、人口減少、転出対策、定住移住促進）を意識した事業を企画、運営すること。

その他、京都を中心とする産業界や教育機関、研究機関と連携するほか、広く人々が交流できる機会を生み出すこと。

企画は事業者の得意領域に合わせて実施する。

- 例）
- ・企画展、公募作家展
  - ・対話型鑑賞会
  - ・交流会
  - ・アート系ビジターセンター（情報発信・収集できる場所）
  - ・キュレーション機能
  - ・コワーキング機能
  - ・作品、物品の販売
  - ・カフェ
  - ・二条城など地域施設と連携したイベント 等

#### 市と民間企業が協働し、より柔軟で、効果的な事業展開を目指す

##### (1) 2階の市民開放型ギャラリーを有効活用

・市民開放型ギャラリーが空いている日程に、借り受けているスペースでは行えない文化事業等を市と連携しながら企画・運営することを検討する。時には全館を一体的に使用するなども。

・市民開放型ギャラリーイベントとの連携を図る。

##### (2) ハード整備を市側でも検討

- ・駐輪場の確保
- ・オープンカフェを計画した場合のバリアフリー対策 など

##### (3) 学校施設ながらも柔軟に対応

- ・アルコール、夜間の営業許可  
（簡単なアルコール提供及び、23時頃までの営業の許可）

## 文化事業のファンドレイジングについて

### ガバメントクラウドファンディング

ふるさと納税担当課にヒアリングを行ない、文化事業のファンドレイジングについて意見をヒアリングした



- ①教育委員会がガバメントクラフアの事業を作って、募集、返礼を行う方法
- ②Arts Aid KYOTOで、事業を作って申請を行う  
留意点としては、企業版ふるさと納税は、参画する企業の目処があることが重要で、決め打ちで企業があるうえでの実施が望ましいとのこと

Arts Aid KYOTO～京都市 連携・協働型文化芸術支援制度～「事業認定型」を活用する

プロポーサル企業を中心となった実行委員会等での申請が必要



現在の厳しい社会経済情勢の下でチャレンジする、アーティストなど文化芸術関係者の意欲的な活動を社会全体で支え、持続的な文化芸術の発展を目指す新たな基金「Arts Aid KYOTO」（京都市 連携・協働型文化芸術支援制度）を令和3年度に創設。この制度のうち、文化芸術関係者自らが個人・企業等に対して支援・協力を依頼し、支援の意向を獲得した後、支援者から本市が寄付を受け、文化芸術関係者に補助を行う「事業認定型」などがある

休眠預金を活用した民間の支援を連携・活用する

プロポーサル企業を中心となった実行委員会等での申請が必要

### エントライ 京都地域創造基金

ソーシャルインベストメント株式会社（京都市）が運営する社会課題や地域課題の解決を目指す事業に投資できるクラウドファンディングサイト。休眠預金を活用

2009年に300人を超える市民からの寄付により設立した日本初の市民コミュニティ財団。寄附者と社会的事業とを繋ぐ事業指定助成プログラムを運営



### 広告枠を設け運用を行う

京都市営バス、京都市京セラ美術館のようなネーミングライツなどの方向性

